

# 学内広報

for communication across the UT



特集：本郷構内交通社会実験  
～正門周辺を快適な歩行空間に～



130<sup>TH</sup>  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

2007.2.28

No. 1353

## 特集

# 本郷構内交通社会実験 ～正門周辺を快適な歩行空間に～

平成19年3月12日(月)～平成19年3月16日(金)  
9:00～17:00

本郷地区交通対策専門部会



安田講堂前は自転車で溢れている



歩行者と車両が交錯する正門前

## 増え続ける構内の交通問題

東京大学の本郷キャンパスは、都心に有りながら、静かな空間や潤い、そして文化の薫りを我々に提供してくれています。キャンパス内では、大学の法人化に伴って、国際競争時代にふさわしい研究・教育の場を提供していくための様々な施設拡張が行われています。ところが、これらの活動が活発になればなるほど、その代償として交通の負荷を増やしてまいります。

近年、急激に増え続けている自転車・バイクは、本郷構内だけで7,000台近く(病院地区を除く)あります。交通手段としては有効なものですが、不適切な場所に駐輪したり、不用になったものを構内に放置したりと、歩行環境を壊す一因にもなっています。この他にも、地下鉄利用者の無断駐輪、大学を車庫代わりにしているバイク等も大きな問題となっています。

本郷キャンパスには、バスやタクシーが通る構内道路(病院前道路)があります。病院前道路では、以前より交通渋滞が深刻な問題となっています。原因である客待ちタクシーの列と違法駐車を無くすだけでなく、病院施設の拡充に伴って、動線計画も大幅に見直す必要性も出てきています。

本来、歩行者優先のキャンパスのはずが、自転車、バイク、自動車の交通に妨げられ、不快・危険を感じるが増えてきています。特に正門と赤門を結ぶ構内道路は、入構車両動線と歩行者・自転車動線が複雑に交わり、多くの危険が指摘されています。

## 歩行者のためのキャンパスに

正門付近で歩行者・自転車・バイク・自動車の動線が交錯し、多数のヒヤリとした経験が報告されたことを重視して、本郷地区交通対策専門部会では、自動車の交通動線を変更し、赤門と正門を結ぶ構内道路の交通量を削減する検討を始めました。そして、この方策が本格的に導入可能かどうかを確認するために、交通社会実験を実施することにしました。

## 社会実験は本格導入前の試行テスト

今回初めて「社会実験」という言葉を知った人も多いかもしれません。そもそも社会実験とは、「新たな施策を本格的に導入する前に、場所や期間を限定して地域の方々とともに試行する取組み(国土交通省より)」のことを言います。社会実験の実施により、新たな施策の課題や効果などを、本格導入の前に把握することができるのです。

そして今回社会実験を実施する目的は2点あります。

1. 正門周辺を車両通行止(自転車、バイク等は除く)にすることで、自動車の交通動線を北部(工学部、理学部等)と南部(医学部、経済学部等)に分ける。そして、これにより生じる問題点を把握する。
2. 正門周辺において、快適な空間を供出するための交通運用実験(自転車・バイク通行の適正化)及び空間整備の試行を行う。

## 本郷地区交通対策専門部会って？

平成17年度に「本郷地区キャンパス構内交通基本計画策定WG」が設置され、歩行環境の改善、自転車・バイク・自動車の管理の徹底等を趣旨とする基本計画をとりまとめました。これを受けて平成18年度に、具体的方策を実施する「本郷地区交通対策専門部会」が設置されました。

家田 仁 部会長(工学系研究科教授)、大貫 静夫 副部会長(人文社会系研究科教授)、下村 彰男 副部会長(農学生命科学研究科教授)を中心に、各部局代表の委員等27名で検討をしています。12月からは、具体的方策を速やかに実施できるよう、各部局の事務職員15名を加え、教員と職員が一体となって検討をしている部会です。

# 実験1

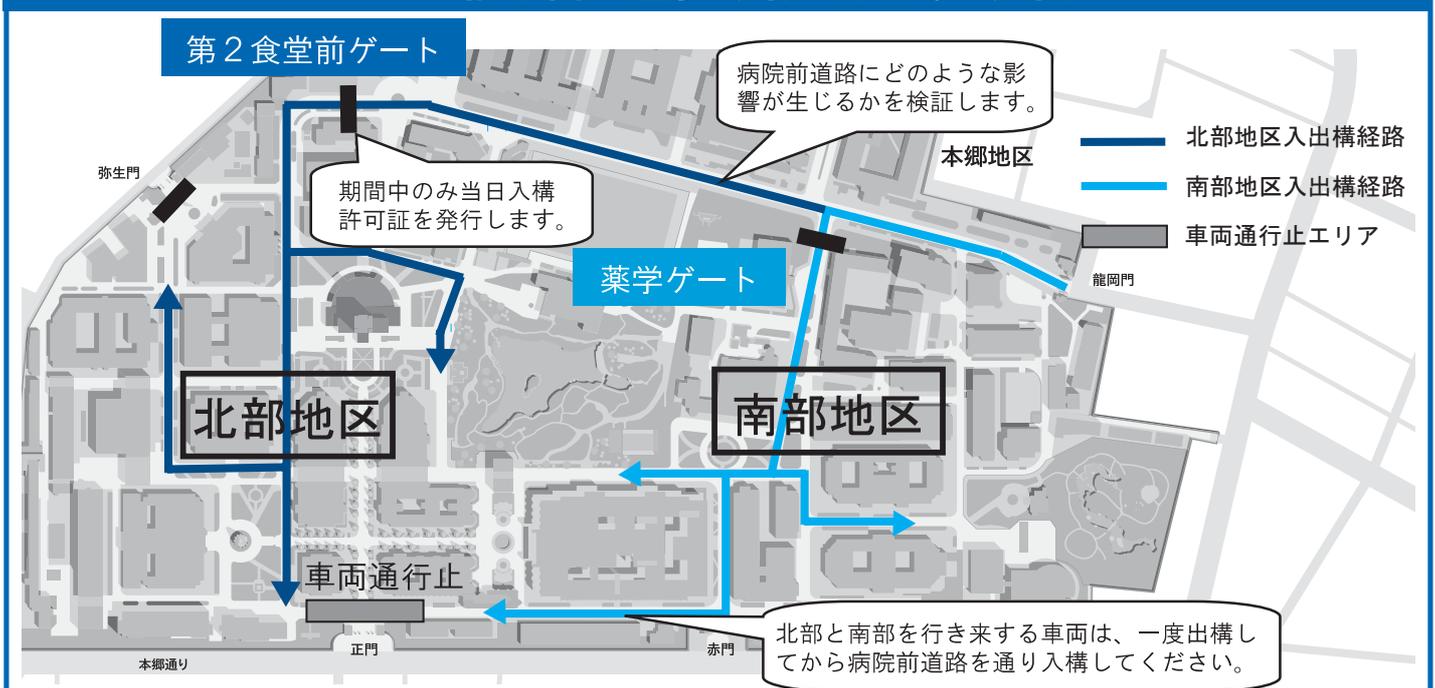
## 正門周辺構内道路の車両通行止（自転車、バイク等は除く）

北部地区への入構を第2食堂前ゲートから行うことで、赤門と正門を結ぶ構内道路の交通量を削減させ、正門周辺が安全で快適な歩行空間となるかを実験します。さらに、社会実験前と実験中の交通量も調査し、今回の実験による交通流動に与える影響も把握します。

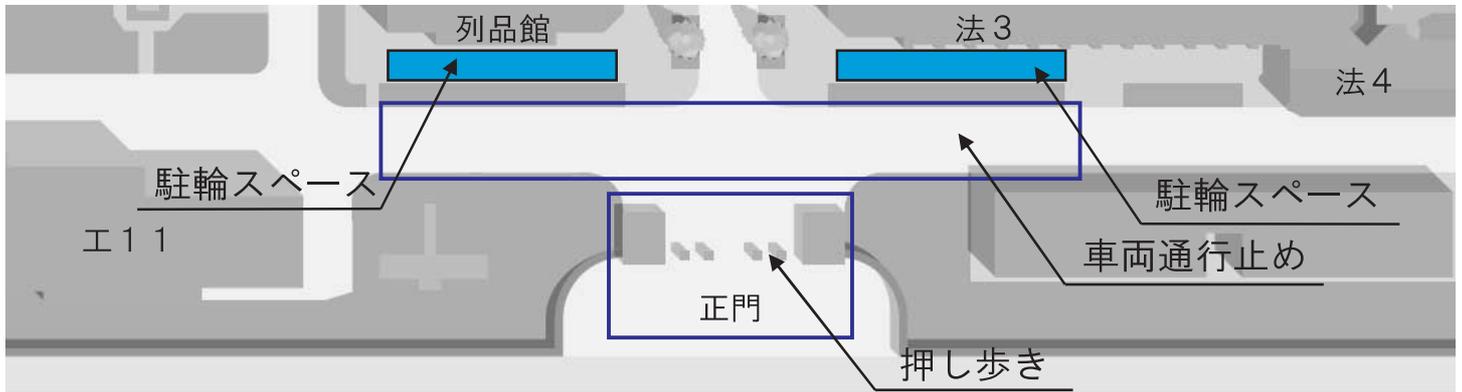
### 当日入構車両の主要動線（現在）



### 当日入構車両の主要動線（社会実験中）



社会実験期間中は、構内に交通誘導員を配置しています。困ったときは、近くにいる交通誘導員にお尋ねください。



## 実験2

快適で安全な歩行空間を供出するために

### 自転車・バイクは押し歩き

来年度より「本郷地区統一の自転車・バイク登録制度」の実施が決まりました。これに伴い、自転車・バイクで正門及び赤門を通過する際は、降車して手押しで通行する規制が導入されます。これは冒頭にも書いたように、歩行者、自転車、バイク、自動車が交錯して多数のヒヤリとした経験が報告されていることを重視して行うものです。社会実験期間中、降車することの意味を周知するためにも、正門前に誘導員を配置し、押し歩きの必要性を呼びかけたいと考えています。



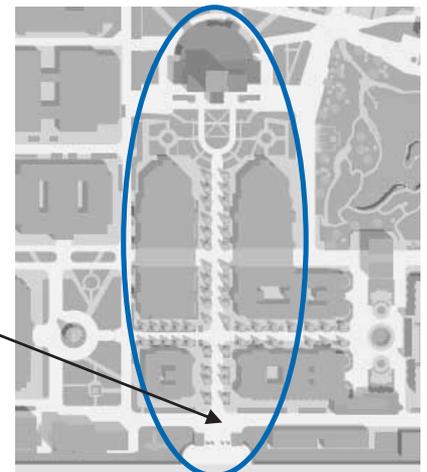
### 駐輪スペースを利用しよう

安田講堂前や正門周辺以外にも、多数の場所で自転車・バイクの問題を抱えています。そこで来年度からは本郷構内全ての駐輪スペースの位置を決め、指定した場所以外では駐輪・駐車を許可しないことにいたしました。

社会実験期間中は、法学政治学系総合教育棟前に溢れている自転車を、来年度から駐輪スペースになる位置（法学部3号館西側）に駐輪してもらうよう誘導し、歩行環境の改善を図ります。

### 正門周辺を快適な歩行空間に

銀杏並木・安田講堂を正面に見据えることができる正門前は、東京大学のシンボルともいえる場所ですが、残念ながら現状では決して良いものではありません。交通動線の交錯だけでなく、舗装や周辺の駐輪の状況も目に余るものがあります。今回の実験では、正門前の防護柵や銀杏並木にある車止めの一部を外し、銀杏並木と正門前を一体の空間に見せるような措置を施します。



我が校の象徴的空間である安田講堂を望む正門付近を銀杏並木と一体の歩行空間に！



正門前の空間は、素晴らしいキャンパス環境を提供する“扇の要”として位置づけていくべきではないでしょうか。今回の社会実験では、キャンパスをより安全で快適な空間としていくための全学的な意識を高めていく第一歩にしたいと考えています。

このような措置が、キャンパス内の研究・教育活動に支障を来さず、正門を利用する方々の安全性や快適性を高めることができるかを、確認したいと考えています。ご協力をお願いいたします。

### アンケートにご協力を！！

社会実験期間中、正門周辺でアンケート調査を実施いたします。その他、関係がある部局や車両で入構した方に対してもアンケート調査を実施します。

社会実験は、正式に導入する前のテスト実験です。交通動線を変更したことによって発生した問題点があれば、どんな些細なことでも教えてください。

本郷地区交通対策専門部会 部長 家田 仁  
副部長 大貫 静夫 下村 彰男  
担当専門委員 清水 哲夫

問い合わせ先：施設部環境課  
環境企画チーム 石橋・戸田  
電話番号：03-5841-2255（内線：22255）  
社会実験に関するご意見・ご要望等  
kankyokikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

# NEWS

## 一般ニュース



### 学生部

#### 第2次学力試験（前期日程・後期日程） の出願受付終わる



平成19年度第2次学力試験の願書受付が1月29日（月）から始まり、2月6日（火）に締め切られた。志願者数は次のとおりである。

#### 前期日程入学志願者数等

科類	募集人員	志願者数	倍率	前年度の倍率
文科一類	373	1,502	4.03	4.15
文科二類	327	1,065	3.26	3.36
文科三類	432	1,597	3.70	3.52
理科一類	1,025	3,012	2.94	2.64
理科二類	492	1,946	3.96	4.41
理科三類	80	410	5.13	5.41
合計	2,729	9,532	3.49	3.47

#### 後期日程入学志願者数等

科類	募集人員	志願者数	倍率	前年度の倍率
文科一類	42	791	18.83	21.98
文科二類	38	666	17.53	17.68
文科三類	53	1,064	20.08	18.51
理科一類	122	2,341	19.19	17.08
理科二類	59	637	10.80	10.83
理科三類	10	153	15.30	17.50
合計	324	5,652	17.44	16.90

### 学生部

#### 平成19年度第2次学力試験 （前期日程）の受験者数決まる



本学の平成19年度第2次学力試験（前期日程）の第1次段階選抜が行われ、2月13日（火）午後、本郷地区キャンパス内において合格者が発表された。これにより、2月25日（日）・26日（月）及び27日（火）に、本郷・駒場の両キャンパス試験場において行われる前期日程の第2次学力試験の受験者数が確定した。

なお、各科類の合格者数は下表のとおりである。

#### 前期日程第1段階選抜結果

科類	募集人員	志願者数	倍率	第1段階選抜		合格者科別成績		
				合格者	予告倍率	最高点	最低点	平均点
文科一類	373	1,502	4.03	1,122	3.0	870	690	763.06
文科二類	327	1,065	3.26	982	3.0	863	695	764.30
文科三類	432	1,597	3.70	1,309	3.0	849	720	763.28
理科一類	1,025	3,012	2.94	2,566	2.5	890	726	779.22
理科二類	492	1,946	3.96	1,728	3.5	853	691	758.76
理科三類	80	410	5.13	320	4.0	887	745	809.49
合計	2,729	9,532	3.49	8,027				

※大学入試センター試験成績は、900点を満点とする。



総務部

## 名誉教授懇談会の開催

2月20日(火)18時から山上会館において名誉教授懇談会を開催した。

名誉教授の方々140人が御出席され、学内からは小宮山宏総長をはじめ各部署長等の関係者多数が出席した。

懇談会は、小宮山総長の挨拶の後、今年度の名誉教授称号授与者を代表して工学部の岡部洋一名誉教授の挨拶、続いて森 巨名誉教授の発声で乾杯があり、終始なごやかな雰囲気で行われ、岡村定矩理事・副学長の閉会挨拶をもって散会した。

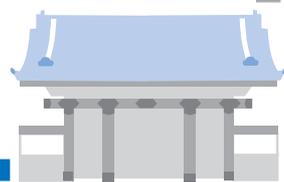


なごやかな懇談会の様子



授与者代表・岡部洋一名誉教授のスピーチ

## 部局 ニュース



大学院総合文化研究科・教養学部



## 部局長の交代

平成19年2月16日(金)付で、下記のとおり、大学院総合文化研究科長・教養学部長の交代がありました。新部局長を紹介するとともに、退任された部局長のご挨拶を掲載します。

【新部局長】 小島 憲道  
【前部局長】 木畑 洋一

### 新部局長紹介

#### 小島 憲道 教授

(任期：平成19年2月16日～平成21年2月15日)

1972年3月 京都大学理学部 卒業

1977年3月 京都大学大学院理学研究科博士課程  
所定単位取得

1978年3月 理学博士(京都大学)

1994年5月 東京大学教養学部 教授

所属：広域科学専攻

専門分野：物性科学、機能物質化学

研究内容(代表的な著書や論文等)

1) T. Nakamoto, Y. Miyazaki, M. Itoi, Y. Ono, N. Kojima and M. Sorai, Heat Capacity of the Mixed-Valence Complex,  $\{(n-C_3H_7)_4N[Fe^{II}Fe^{III}(dto)_3]\}_n$  (dto = dithiooxalato) and Phase Transition due to Electron Transfer and Change in Spin-State of the Whole System, *Angew. Chem.Int. Ed.*, 40 (2001) 4716-4719.

2) N. Kojima and K. Tsushima, Recent Progress in magneto-Optics and Research on Its Application, *Low Temp. Phys.*, 28 (2002) 677-690

3) J.Y. Son, T. Mizokawa, J.W. Quilty, K. Takubo, K. Ikeda and N. Kojima, Photoinduced Valence Transition in Gold Complexes  $Cs_2Au_2X_6$  (X = Cl and Br) Probed by X-ray Photoemission, *Phys. Rev. B.* 72 (2005) 235105-1-4.

4) H. Shimizu, M. Okubo, A. Nakamoto, M. Enomoto and N. Kojima, "Enhancement of the Curie Temperature by Isomerization of Diarylethene (DAE) for an Organic-inorganic Hybrid System:  $Co_4(OH)_7(DAE)_{0.5} \cdot 3H_2O$ .", *Inorg. Chem.*, 45, 10240-10247 (2006).

5) *Maneto-Optics*, ed. S. Sugano and N. Kojima,

Springer, 2000.

6) 『新しい磁気と光の科学』 菅野暁・小島憲道・佐藤勝昭・対馬国郎／編, 講談社サイエンティフィク, 2001

## 部局長退任の挨拶

### 退任にあたって：教養教育への支援に感謝

#### 前大学院総合文化研究科・教養学部長

木畑 洋一

研究科長・学部長をつとめたこの2年間、最も力をいれたのは、教養教育（リベラルアーツ教育）の充実ということでした。1990年代前半に国立大学の教養部・教養課程が軒並み解体していった中、東京大学が教養学部を堅持したことは、今きわめて大きな資産となっています。全学出動といったかけ声の陰で教養教育をめぐる体制が全く無責任なものになっている大学も少なくないこと、そのためまた新たに教養教育を担う組織を立ち上げている大学もあること、そういった事情を耳にするにつけ、東大が教養教育を中心的に担う学部をもち、そこでの教育が全学によって支援されていることのこの上ない強みを痛感しました。教養教育開発機構や東アジア・リベラルアーツ・イニシアティブによって、東大の教養教育の成果を海外をも含めた外に向けて発信していく仕組みも作られてきています。小宮山宏総長をはじめとする大学本部の方々、研究科長・研究所長など他の部局の皆様が、こうした東大の教養教育をさらに発展させていくことの意味を深く理解され、さまざまな面での支援をして下さったことに、改めて心から感謝いたします。



この度、大学院総合文化研究科に研究寄付講座「細胞・器官制御」(和光純薬工業株式会社)が設立されることになりました。

ここでは、マウスの未分化細胞やヒトの幹細胞を用いての細胞分化や器官形成のメカニズムと形成制御を中心に、基礎研究から応用研究へと展開を行います。

講座では、客員教授1名、助手1名をスタッフとして細胞培養、発生分化、バイオマーカーに対する抗体、ELISAキットの開発、再生医療への基礎研究などのテーマを行います。

寄付総額は1億6,000万円、期間は平成19年4月～23年3月の4年間を予定しています。

サステイナブルキャンパス

花木啓祐  
サステイナビリティ学連携  
研究機構 兼任教授

去年の11月、アメリカ北東部の大学を中心としたサステイナブルキャンパスの国際会議があるというので、イエール大学に出かけてきました。環境の分野では西海岸のカリフォルニア州の先進的な政策は広く知られていて、歴史の長い北東部は保守的なイメージがあります。京都議定書を批准しないという、きわめてうしろ向きの温暖化政策をとっているアメリカだから、たいしたことはやっていないだろうと思って出かけていきました。

しかし、会議に出てみると全然違いました。会議はとても明るい感じで、サステイナブルキャンパスを実現させようという、わくわく感がありました。



イエール大学HP

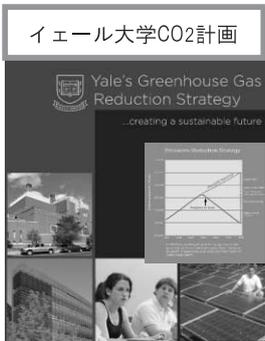
開催校であるイエール大学を始めとしてとても活発に活動をしています。行くまでは、サステイナブルキャンパスというのとは一体何をやるのだろうか、というくらいのもりでいたのですが、通勤通学の交通対策、温暖化対策、循環的な資源の利用、地元の食材の活用、地域社会との協働など多彩なプログラムが多く大学の行われています。特に学生の活力をうまく生かしていることが印象的でした。

例を挙げると、イエール大学が力を入れているプランは2020年を目標とした二酸化炭素の大幅削減計画です。地球温暖化への対応については、ブッシュ政権率いる連邦政府と州政府や民間の態度は同じではない、とかねてから聞いていましたが、こんなに違うんだということを実感し、またアメリカ社会の層の厚みを感じました。

キャンパスは社会の縮図で、まずキャンパスをサステイナブルなものに変えることによって社会を変えていくきっかけにしようという意気込み、将来の社会に人を送り出すという大学の役割への強い意志がそこには見られます。

気がつけば、将来の社会をキャンパスという場を実現するという面で、日本の大学はアメリカの大学に遅れを取ってしまっています。

東大だって省エネルギーのプランが立てられています。温暖化対策の研究をしている研究者はたくさんいます。サステイナビリティに取り組んでいる学生のグループもあります。力を合わせ、わくわく感を持った活動にしていくなが必要なのです。



イエール大学CO2計画

調達本部です



第23回 コピー機調達大改善3ヶ年計画!

コピー機に係る調達改善を決意し、調達本部が全学のコピー機の実態を密かに(?) 調査し始めたのはちょうど1年前でした。調査結果に基づいて約1200台のコピー機について1台1台、機種・機能・利用実態といった調査リストを各部局に示し、機種変更など部局の要望をとることで調達改善計画をスタートさせました。

それに並行して、調達本部では全機種の「タイプ分け」に挑み、各部局で使われている機種を「モノクロ」「カラー」各々4タイプに区分しました。そして、その中から現行の1台1台に対応する機種を部局に選択して頂き、その全体を19年度の「仕様」として1社のサプライヤ選定手続きを踏むこととしました。

現在、東大へのコピー機サプライヤは4社、うち1社が全体の90%を占めていました。サプライヤを1社に集約した場合には、当然現在90%を占めている社の交代もありえます。その場合には1000台以上のコピー機が一斉に取替となります。ところが、この取替規模の大きさが意外な「落とし穴」を用意していました。

このような大規模な取替は環境問題を引き起こす、というのです。東大の調達改善によって取替撤去される大量のコピー機は大半が廃棄されることになり、それはまぎれもなく「環境問題」だということです。これは特定のサプライヤの見解ではなく、コピー業界各社のいわば共通認識であることが分かってまいりました。

サプライヤを1社に集約して調達改善することと、環境問題を引き起こさないことを両立させねばなりません。調達本部は考えました。到達した結論は、「1社に集約はするが、全数の取替にはあえて3年かける」というものでした。コピー機は通例3年で取替えですので、こうすればこれまでと取替のテンポは変わらないこととなります。

年が明けて、いよいよサプライヤの選定手続きに入りました。これまで90%を占めるサプライヤが存在していたとはいえ、1台ごとの契約の足し算で全体としては競争原理が機能していませんでした。全学分をまとめた初めての入札を実施した結果、調達本部の期待どおり、大幅な価格低減が実現しました。

従前に比べてほぼ半額の水準、ただ3ヶ年計画ですので19年度の効果はその3分の1、それでもゆうに1億円を超えます。3年目の21年度には3億5千万円ほどの効果が約束されています。また、今回取り入れた全学のコピー機タイプ分けは「仕様の標準化」という調達改善のもうひとつの重要な側面を持つことにも、ぜひ注目して頂きたいと思います。



調達本部連絡先 ☎22148 櫻井

## Proprius21: 地圏利用における環境調和型技術開発に関する共同研究を開始

### レビュー会議開催

天然ガス鉱業会 京葉天然ガス協議会（環境委員会）と東京大学とは、Proprius21（東京大学産学連携本部が立案する、目に見える成果の創出をめざす新しい価値創造型産学連携共同研究スキーム）で、地圏利用における環境調和型技術開発に関する共同研究を開始することになりました。当該共同研究の目的は以下の通りです。

<目的> 地域エネルギー資源開発活動の持続可能性と地域資源の高度利用に資する。

1月18日（木）、東京大学産学連携プラザにて、下記の通りレビュー会議が行われ、活発な討議が行われました。

開会挨拶/ 藤田隆史 産学連携本部 本部長  
 プロジェクトに関する全体説明、サブテーマ個別説明/  
 徳永朋祥助教授（新領域創成科学研究科）  
 総括/ 吉井正徳氏（京葉天然ガス協議会環境委員会委員長、  
 関東天然瓦斯開発株式会社代表取締役常務 茂原鉱業所長）  
 閉会挨拶/ 太田与洋 産学連携本部産学連携研究推進部長

※Proprius21に関する詳細は、下記URLをご覧ください。  
<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/proprius21/index.html>

### 持続可能な開発の提案を目指す

天然ガスに代表される化石エネルギーは、一次資源として人間活動に不可欠な物質です。しかしリサイクル、リユースができない特性を持つため、安定した持続的な供給が必要です。千葉県を中心とした南関東ガス田は、約3,200億m<sup>3</sup>の水溶性天然ガス可採埋蔵量を誇り、当該地域のかん水（ガスが溶けた状態で存在する地層水）はガス水比（産出水量に対するガス量の容積比）が高いために生産効率が高く、さらに天然ガスは一酸化炭素や硫黄分等を含まない環境にやさしいクリーン・エネルギー資源です。

しかし、水溶性天然ガスは地下に存在しているため、資源開発に伴い地圏環境の変化が発生します。地盤沈下問題や、地表環境変化（河川流況、洪水、塩水遡上など）の可能性も危惧されています。当該地域の水溶性天然ガスを今後も長期間にわたって安定したエネルギー資源として活用するためには、環境への影響に十分な配慮がなされた地域社会に受容される持続的な開発のあり方を模索していく必要があります。

本共同研究グループでは従来の環境課題解決のための様々なアプローチからさらに一歩進めて、地域社会に受容される「持続可能な開発の提案」を目指します。具体的には、その実現に不可欠な以下の3つの技術開発【環境変化把握・予測】【地盤変動監視・観測】【資源利用・地域貢献】を行います。

連絡先: 産学連携本部（研究協力部 産学連携課）  
 電話: 内線22857（外線03-5841-2857）  
 ホームページ: <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>  
 ※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック



レビュー会議開催(1月18日)

### 第8回科学技術交流フォーラム 開催案内

「大学のソフトウェアを世界へ」

日時: 3月9日（金）13:00~17:50

会場: 経済学研究科棟地下1階大教室 事前登録必要

◇お申込 <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/kyogikai/forum/>

【プログラム】

◇ご挨拶

- ・ 藤田 隆史（東京大学産学連携本部長）
- ・ 小宮山 宏（東京大学総長）
- ・ 文部科学省、経済産業省
- ・ 川上 潤三氏（株式会社日立製作所執行役専務  
研究開発本部長兼医療事業統括本部長）

◇講演

（①～⑦は東京大学研究者講演、⑧～は産業界講演）

- ①「大学発ソフトウェア移転の課題」  
太田与洋（産学連携本部教授・産学連携研究推進部長）
- ②「流れのマルチスケールシミュレーション」  
松本洋一郎（工学系研究科長・教授）
- ③「バリューデザインの技術:『見えるツール』から『見る人間』へ」大澤幸生（工学系研究科助教授）
- ④「初心者にも使える3次元グラフィクス技術とその応用」五十嵐健夫（情報理工学系研究科助教授）
- ⑤「創発の埋め込みと発現」  
上田完次（人工物工学研究センター長・教授）
- ⑥「実践的ケモインフォマティクス・ソフトウェアの開発と発信」船津公人（工学系研究科教授）
- ⑦「革新的シミュレーションソフトウェアの研究開発プロジェクトー実用的先端シミュレーションソフトウェアの研究開発とその普及の取り組みー」  
加藤千幸（生産技術研究所計算科学技術連携研究センター長・教授）
- ⑧「大学ソフトウェアの産業応用の現状と将来について」  
高田章（旭硝子株式会社中央研究所特任研究員）

◇<調査報告>

- 「わが国の企業におけるシミュレーション技術の活用実態と人材育成」  
大谷泰昭（みずほ情報総研株式会社科学技術部長）

## アメリカの現場から

テキサスA&amp;M大学政治学部博士課程 院生

中條美和さん

私は去年の夏から東京大学を離れ、アメリカの大学に学生留学中である。学問的理由はさておき、なぜ留学を志したのかといえば、実は「耳が悪いんだから留学なんてできるわけがない」と言われたから、という逆噴射の性格の私は、幼少時から重度の聴覚障害を持っている。日常生活では補聴器使用とともに口の形を読み取って過ごしてきたため、周囲も私の障害を意識しないことが多い。とはいえ、聴力障害をもつての留学はまさしくチャレンジである。アメリカで聴覚障害を持つ留学生が討論の嵐である政治学の授業に出席しているのは、かなり無謀な光景かもしれない。留学前に訪問したアメリカのある大学では、「うーん留学生で聴覚障害」と教授を絶句させた。

私が初めてアメリカの大学で支援を受けたのは、まだ東大にバリアフリー支援室ができる少し前、アメリカでサマープログラムに参加したときであった。費用を個人負担するもことなく、参加した全ての授業に字幕支援がついた。1人のタイピストがリアルタイムに全ての発言をパソコン画面に字幕表示するそのシステムは、それまで日本においては支援を受けた経験が全くなかった私にとって、それこそ明治時代の欧米使節団なみのカルチャーショックであった。ところが、今日の東大のバリアフリー支援は、たった数年で富国強兵、充実した内容となった。私が現在アメリカの留学先で受けている支援内容（字幕システムとアメリカ手話通訳）と東大で受けた支援内容とその満足度は

ほとんど変わらない。アメリカと日本の大きな違いは、アメリカには障害者差別禁止法（ADA）という実効力のある法律が存在することである。全ての大学は、このADAに従わなければ法律違反となる。大学の授業で配布される講義概要には必ずADAの記載がある。障害を持つ学生は、支援をお願いするのではなく、ADAに基づいて権利として要求するのである。

私が言いたいのは、「さすがアメリカ」という話ではない。留学して最初の授業が始まったころ、教授からメールがきた。「字幕はきちんと表示されているのか、もし授業で逃した部分があれば知りたい、逃した部分は私の講義ノートをコピーしなさい（かなり意識）」。ここで、「先生ありがとう、気にかけてくれているんだ」と思ってもいいけどそこで止まってはいけない。これは、「ちゃんと授業を受けられていなかったら、成績を正当に評価できない」という意味である。つまり、「支援を受けているのだから皆と同じように評価する」、ひっくりかえせば「適正に評価するために支援がある」ということになる。そのためには、質の高い支援を提供する必要があるし、支援を受ける側にも覚悟が必要である。権利があるにもかかわらず要求しない学生は授業に参加していないに等しく、要求したら要求したので質の高い支援が提供されて厳しい評価が待っているのである。

日本では、ADAのように支援などの合理的配慮の提供を義務付ける法律が存在しないために、モラルや情に頼っての支援となりがちである。それは決して悪いことではない。東大にバリアフリー支援室がなかった頃、教授が、「（聞こえないことで）もし問題があったら、考えましょう」と親切心から言ってくれたことがある。でも、それは根本的な解決なのであるか。適切な支援を提供しない代わりに他の面で考慮する、という対応、例えば、授業で一切発言しなくても、「中條さんは耳が悪いからしょうがない、ま、A（優）あげておこう」という判断があるとしたら、それはそれでちゃっかりうれしいが、本当に望ましいことなのであるか。支援体制が整った今、バリアフリー支援室は何に基づいてサービスを提供するのか、各部署はバリアフリー支援室に何のために何を求めるのであろうか。



テキサスの牧場で留学生向けのバーベキューの合間にライフルを撃つ筆者

<東京大学バリアフリー支援室 連絡先> E-mail: spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp

本郷支所(理学部旧1号館135号室): TEL 03-5841-1715 FAX 03-5841-1717

駒場支所(先端科学技術研究センター3号館503号室): TEL:03-5452-5067 FAX:03-5452-5068



Webページをきれいに印刷するヒント

ホームページを印刷しようとするとうまく印刷できないことはありませんか？そんな時にはちょっとページの設定を変えてみると直る場合があります。

下の印刷プレビュー画面では、「施設のご案内」という文字が切れてしまっています。



【設定方法】

① 印刷プレビュー画面にし、「印刷」ボタンの隣にあるページ設定ボタンを押します。



② 用紙サイズで「A3->A4」を選択し、「OK」ボタンを押します。



なお、HPの作成方法によっては、上記の方法では操作できない事もありますので、悪しからず。

情報課HPでもよくある質問にお答えしています！  
[http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/gen/gen4/pc\\_faq/index.html](http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/gen/gen4/pc_faq/index.html)

PC講習会 火～金 13:30～16:30 開催中です！  
 問合せ：総務部情報課運用管理チーム (内)22179

ワタシのオシゴト 第9回

Rings around the UT

医科学研究所 経理課財務係  
 香川明子 さん

興味が尽きない「大学運営」

東大職員として採用され早6年。現在2部署目です。主に予算管理を担当しています。最初の部署では給与関係を担当していました。給与の仕事の対象が教職員個人だとすると、現在の仕事の対象は部局全体です。この部署に異動するまでは、教職員一人一人の給与をいかに間違えずに支払うかが常に念頭にあり、部局運営や大学運営のことはあまり興味がありませんでした。しかし、今の部署に配属されてからは、全体を見通すことの大切さ、この部局は何がウリなのかを把握することの大切さ、東大は現在どのような経営をしているのか、世の中では何が求められているのかを見極めることの大切さを痛感しています。と同時にそれらの影響を直に感じられるので、常に新鮮で面白いです。特に今の部署では医科学研究所と附属病院の両方の経営状況を見ることができるので、興味が尽きません。



昭和9年に建てられた趣のある医科研1号館前にて



医科研経理課美女チーム

血液型：O型  
 自分の性格：不明  
 出身地：栃木県

次回執筆者のご指名：竹中秀行さん  
 関係：O型同志 一言紹介：話している  
 とほっとする、男性版松嶋菜々子



第13回

～広報センターより～

ご案内編

## 三四郎池の丘にある「四面石」のこと

東京大学のキャンパスは全国に広がっていますが、皆さんの活動するキャンパスに、お気に入りの場所はないでしょうか？

誰にでも、自分にとって心地よい場所がきっとあるのだらうと思います。私にもいくつかありますが、そのひとつ、三四郎池の南側にある小高い丘をご案内させていただきます。ちょうど池の淵にある藤棚の真上にあたるのですが、ここから見わたす眺めは、ちょっとした展望台です。眼下には三四郎池、向う側正面には安田講堂の時計台が木々の間から見えています。斜め右に山上会館、左に弓道場です。小鳥のさえずりも耳に優しく、ふっと力がぬけるようです。

そういえば、夏目漱石の小説『三四郎』のなかに、三四郎が大学の陸上運動会を見に行つた際、「元来あまり運動好きではない」からか、辛抱できずに会場（注：御殿下グラウンドと思われる）を抜け出すシーンがありました。「爪先上りを岡の頂点まで来た。路は頂点で尽きている」と続くのですが、もしやこの見晴台がそうではないかと、ほくそ笑んでいる私です。果たして皆さんのご推察はいかが？（おっと、今回は小説散歩ではないのでここまで）

そんな私の好きな、丘の頂上の手前、左側（西側）には不思議な四面石（約70cmの立方体）がぽこっと置いてあります。なぜ不思議かという、碑面には、富山藩邸に伝わる石像のことが記されているのですが、江戸時代、加賀藩の庭園内だったこの場所に、富山藩の石碑があるのが謎だからです。そして、ちょっと置いただけ？のような置き方もミステリアスです！最後に、碑面に刻まれた銘文をご紹介します。ぜひ読んでいただきたいと思います。

～碑文の解釈は次回へ続きます。おたのしみに～

### 碑文

江 戸 城 之 北 富 山 大 守 藩 邸  
 之 内 從 昔 相 傳 有 彫 石 之 像  
 不 知 由 來 蓋 此 千 載 之 舊 物  
 文 字 剥 落 不 可 讀 焉 其 像 者  
 乃 大 日 如 來 四 智 佛 所 謂  
 東 方 阿 閼 佛 南 方 寶 佛 西  
 方 無 量 壽 佛 北 方 不 空 成 就  
 佛 也 亦 穿 石 頂 爲 孔 如 容  
 物 憶 其 當 時 所 納 佛 舍 利 種  
 子 梵 文 等 歟 今 茲 有 置 像 並  
 君 命 疊 石 爲 基 而 安 置 像 並  
 勅 佛 名 且 營 堂 宇 以 覆 護 云  
 天 保 四 季 癸 巳 六 月 日  
 權 大 僧 都 法 印 行 智 敬 白

注：蓋・所・（天保）四については、原文の文字と異なります。

## コミュニケーションセンターだより No.31

### ■校費購入について

みなさまも知っていらっしゃるかと思いますが、コミュニケーションセンター（以下、UTCC）では、運営を本学が行っているため、校費購入手続きが通常と異なります。改めて購入方法をご説明させていただきます。今後のご参考にできれば幸いです。

### ■校費購入方法

- ①UTCCホームページのトップページより申込書をダウンロード  
↓
- ②購入商品を決定し、申込書に記載する  
\*その他、記入事項について記載もれがないようにお願いします。  
↓
- ③会計担当の方から申込書に承認印をもらう  
↓
- ④書類をUTCCに提出し、商品と交換  
\*包装希望、ご注文数が多い場合は、事前にUTCCまでお問い合わせ下さい。

### ■校費購入人気ベスト5！！

1位	ポストカード
2位	歴史クリアファイル
3位	ナイロンバック
4位	光触媒シート(2枚セット)
5位	天体クリアファイル(カラー)

(2006年11月～2007年1月実績)

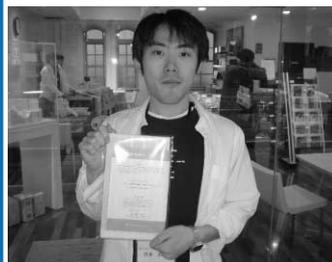
### ■その他人気商品

- ・ボールペン
  - ・マグカップ
  - ・体力式アミノ酸
  - ・乾杯式アミノ酸
  - などなど…。
- ご贈答用としてのご利用で好評いただいております。

### ■UTCCスタッフ紹介

～Part 4～

UTCCでは東大の学生が活躍しています。今後も少しずつ紹介できればと思っておりますので、よろしくお願ひします。励みになりますので、店頭で見かけた際はお声がけ下さい。



文学部言語文化学科  
ドイツ語ドイツ文学  
専修課程 4年  
岡本 知之

約2年間働いてきましたが、3月一杯で卒業する予定です。ここでのアルバイトで感じた、働くことの面白さや難しさの経験は、これからの社会人として生きて行く自分の自信になりました。

ちなみに、個人的に好きな商品は、東大の研究から生まれた光触媒シートです。お客様にとっても興味を持っていただき、改めて東大の研究のすごさを感じています。

(担当：コミュニケーションセンター 辻)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30  
電話：03-5841-1039  
http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp



## 教育学部附属中等教育学校で「音楽祭」開催される

1月20日（土）12時30分から、板橋区立文化会館において平成18年度の「音楽祭」が行われた。486名という多数の保護者が参観した。

「音楽祭」は、前期課程評議委員会主催で、1年生から3年生のクラス対抗で行われ、課題曲と自由曲の2曲を歌った。今年度の課題曲は、1年生「涙をこえて」、2年生「名づけられた葉」、3年生「聞こえる」であった。

衛藤隆学校長は、はじめに挨拶で、「全員が参加して合唱をする機会というのは、この時期だけである。全員が力を合わせ歌い、一人ひとりの人生の中で、光り輝く1ページとなるように、輝いてほしい」と述べた。

有志参加の5つのグループの発表もあり、観客は、3年の小林夏衣さん・八木麻友さんによる「ピアノとヴァイオリンのソナタ第5番へ長調」など素敵な演奏を堪能していた。

課題曲部門は、1位3年A組、2位2年A組、3位3年C組であった。自由曲部門は、1位3年C組、2位3年A組、3位2年A組であった。

総合部門は、1位3年C組、2位3年A組、3位2年A組で、優勝した3年C組がアンコールで「終わりのなき旅」を熱唱した。

おわりに、実行委員長の3年生奥山愛さんは、「この音楽祭でまわりの人の大切さを学んだ」と感謝の言葉を述べた。また、三橋俊夫副校長は、「職員室から練習の様子をみていたが、生徒たちのやる気がひしひしと伝わってきた。自由曲に各クラスの個性が出ていた」と講評した。



優勝した3年C組の合唱

(教育学部附属中等教育学校)

＝特集テーマ&執筆部署募集告知＝

## 特集の記事を執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

### 1. 制作方法

- ① テーマの選定  
全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することになっています。まずは一度、総務部広報課に気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。  
(締切日の2週間前までに1度ご相談ください)
  - ② 内容・構成の決定  
テーマが決まったら執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。見開き2ページをひとつの単位とします。内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。
  - ③ 原稿の執筆  
決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はwordファイルでご制作下さい。
  - ④ ビジュアル要素の提供  
特集に盛り込む写真・図・イラストを執筆部署から提供していただきます。手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがいます。
  - ⑤ デザイン  
お書きいただいた原稿、ご提供いただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。もちろん、執筆部署でデザインを作っていたいただいてもかまいません。
  - ⑥ 校正  
デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。
  - ⑦ 完成  
刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布します。
- ### 2. 締切日
- こちらから期日を申しますので、ご協力をお願いします。通常の学内広報×切日（第1・第3水曜日）の2日前を原稿締切日とします。

### 3. 問い合わせ先・原稿提出先

総務部広報課 広報企画チーム  
TEL：03-3811-3393 内線22031  
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

# INFORMATION

## シンポジウム・講演会

### シンポジウム・講演会

生命科学教育支援ネットワーク

#### 第4回 東京大学の生命科学 シンポジウム

本学では10を超える学部・研究科・研究所において、多様な生命科学の研究と教育が進められています。地球上の生命の多彩な広がりやその不思議から、病気の予防、診断、治療法に関する新しい方法の開発に至るまで、東大の様々な領域の研究者が、最先端の話題を解りやすく紹介するシンポジウムが開かれます。多くの学生、院生、研究者の参加を期待します。

日時／4月14日（土） 10:00～17:20

会場／本郷キャンパス・安田講堂

参加費／無料

ホームページ／

<http://www.lse.u-tokyo.ac.jp/biout2007.html>

プログラム

10:00～10:10 「開会の挨拶」 小宮山 宏 総長

#### <座長：満洲 邦彦／情報理工学系研究科>

10:10～10:30 「脳はどのように言語を生み出すか」

総合文化研究科 酒井 邦嘉

10:35～10:55 「生命の科学と人間の学問」

人文社会系研究科 島蘭 進

11:00～11:20 「生命システムへの数理的アプローチ」

生産技術研究所 合原 一幸

11:25～11:45 「生き物のからだを刻む分節時計」

理学系研究科 武田 洋幸

11:50～12:10 「カイコのゲノムから読みとる昆虫の進化」

農学生命科学研究科 嶋田 透

12:10～13:30 休憩

#### <座長：長澤 寛道／農学生命科学研究科>

13:30～13:50 「地球の一部としての海洋生物資源の変動」

海洋研究所 渡邊 良朗

13:55～14:15 「植物細胞のバイオイメージング」

新領域創成科学研究科 馳澤 盛一郎

14:20～14:40 「発癌の分子機構：複製開始因子Cdc6の役割」

医学系研究科 岡山 博人

14:45～15:05 「神経細胞を生み出す仕組み」

分子細胞生物学研究所 多羽田 哲也

15:05～15:30 休憩

#### <座長：福田 裕穂／理学系研究科>

15:30～15:50 「ビタミンE：遺伝病からマラリアまで」

薬学系研究科 新井 洋由

15:55～16:15 「ゲノム情報から創薬へ」

医科学研究所 古川 洋一

16:20～16:40 「スーパー制限酵素を用いる巨大DNAのマニピュレーション」

先端科学技術研究センター 小宮山 真

16:45～17:05 「ナノバイオテクノロジーが拓く未来医療：ピンポイント診断・治療のためのナノデバイス設計」

工学系研究科 片岡 一則

17:10～17:20 「閉会の挨拶」

東京大学生命科学教育支援ネットワーク長 浅島 誠

17:40～懇親会

会場／山上会館 談話ホール

参加費／学生1000円、有職者3000円

(参加希望者は4月10日（火）までに左記URLにご連絡ください)

連絡先／〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学・大学院薬学系研究科・生体異物学教室

東京大学生命科学教育支援ネットワーク

シンポジウム当番世話人 入村 達郎／酒井 京子

Tel：03-5841-4870

Fax：03-5841-4879

E-mail：biout2007@lse.u-tokyo.ac.jp



**奈良坂 紘一 教授**

(化学専攻 有機化学講座 有機合成化学研究室)  
 日時：3月15日(木) 14:00~16:00  
 会場：理学部化学本館5階講堂  
 演題：「フラスコからのメッセージ」

**梅澤 喜夫 教授**

(化学専攻 無機・分析化学講座 分析化学研究室)  
 日時：3月16日(金) 14:00~16:00  
 会場：理学部化学本館5階講堂  
 演題：「見えないものを見えるようにする」

**大学院総合文化研究科・教養学部****植田 直志 助教授**

(広域科学専攻 関連基礎科学系)  
 日時：3月6日(火) 16:20~17:20  
 会場：教養学部18号館1階ホール  
 演題：「分子線と磁気共鳴」

**川合 慧 教授**

(広域科学専攻 広域システム科学系)  
 日時：3月13日(火) 15:30~17:00  
 会場：教養学部18号館ホール  
 演題：「情報の自由な翼」

**跡見 順子 教授**

(広域科学専攻 生命環境科学系)  
 日時：3月17日(土) 13:00~  
 会場：教養学部学際交流ホール  
 演題：「人間の科学を求めて40年~『ヒューマンバイオロジー』そして『身心一体学』」

**馬淵 一誠 教授**

(広域科学専攻 生命環境科学系)  
 日時：3月20日(火) 15:00~  
 会場：教養学部13号館 1313号室  
 演題：「細胞はどうやって分裂するか」

**大学院新領域創成科学研究科****大森 博雄 教授**

(自然環境学専攻 自然環境構造学分野)  
 日時：3月16日(金) 15:00~17:00  
 会場：柏キャンパス・新領域創成科学研究科  
 環境棟1階・FSホール  
 演題：「自然環境学の課題と展望」

**医科学研究所****高津 聖志 教授**

(感染・免疫部門 免疫調節分野)  
 日時：3月9日(金) 14:15~14:55  
 会場：医科学研究所1号館講堂  
 演題：「免疫系の調節機序と分子標的に魅せられて」

IL-5の研究から学んだこと」

**竹縄 忠臣 教授**

(癌・細胞増殖部門 腫瘍分子医学分野)  
 日時：3月9日(金) 15:10~15:50  
 会場：医科学研究所1号館講堂  
 演題：「細胞内情報伝達研究の黎明期と隆盛期に立ち会って」

**澁谷 正史 教授**

(癌・細胞増殖部門 腫瘍抑制分野)  
 日時：3月9日(金) 16:10~16:50  
 会場：医科学研究所1号館講堂  
 演題：「血管新生因子の癌と炎症への関与」

**御子柴 克彦 教授**

(基礎医科学部門 脳神経発生・分化分野)  
 日時：3月9日(金) 17:05~17:45  
 会場：医科学研究所1号館講堂  
 演題：「中枢神経系の発生・分化機構の解析」

**生産技術研究所****高木 堅志郎 教授**

(基礎系部門)  
 日時：3月19日(月) 10:30~12:00  
 会場：駒場IIキャンパス総合研究実験棟 (An棟)  
 2階コンベンションホール  
 演題：「波動的物性論ーと人間論」

**榊 裕之 教授**

(情報・エレクトロニクス系部門)  
 日時：3月19日(月) 13:30~15:00  
 会場：駒場IIキャンパス総合研究実験棟 (An棟)  
 2階コンベンションホール  
 演題：「量子的ナノ世界の開拓と半導体エレクトロニクスの進展」

**魚本 健人 教授**

(人間・社会系部門/  
 都市基盤安全工学国際研究センター長)  
 日時：3月19日(月) 15:30~17:00  
 会場：駒場IIキャンパス総合研究実験棟 (An棟)  
 2階コンベンションホール  
 演題：「コンクリートの面白さと難しさ」

生産技術研究所問い合わせ先

Tel.03-5452-6009

Fax.03-5452-6071

E-mail:syomu@iis.u-tokyo.ac.jp

## 物性研究所

### 高橋 實 教授

(物性理論研究部門)

日時：3月7日(水) 13:20～15:15

会場：物性研究所本館6階大講義室(A632)

演題：「量子統計の進歩

ー理論研究40年を振り返ってー」

### 高山 一 教授

(附属物質設計評価施設)

日時：3月7日(水) 15:30～17:25

会場：物性研究所本館6階大講義室(A632)

演題：「スピングラスと計算物性物理」

## 海洋研究所

### 石井 輝秋 助教授

(海洋底科学部門・海洋底テクトニクス分野)

日時：3月15日(木) 13:00～14:00

会場：海洋研究所講堂

演題：「海洋底の岩石」

### 寺崎 誠 教授

(国際沿岸海洋研究センター・沿岸生態分野)

日時：3月15日(木) 14:00～15:00

会場：海洋研究所講堂

演題：「私のプランクトン研究」

### 太田 秀 教授

(海洋生態系動態部門・底生生物分野)

日時：3月15日(木) 15:30～16:30

会場：海洋研究所講堂

演題：「奈落曼荼羅紀行」

### 小池 勲夫 教授

(海洋化学部門・生元素動態分野)

日時：3月15日(木) 16:30～17:30

会場：海洋研究所講堂

演題：「海洋における生元素循環と生物活動」

## アイソトープ総合センター

### 巻出 義紘 教授

(アイソトープ総合センター長)

日時：3月9日(金) 15:00～17:00

会場：アイソトープ総合センター大講義室

演題：「アイソトープーその研究から管理までー」

## お知らせ

### 附属図書館

## 常設展示「(新制) 東京大学総長著作展 (1)ー南原総長から向坊総長までー」

期間：3月1日(木)～5月31日(木)

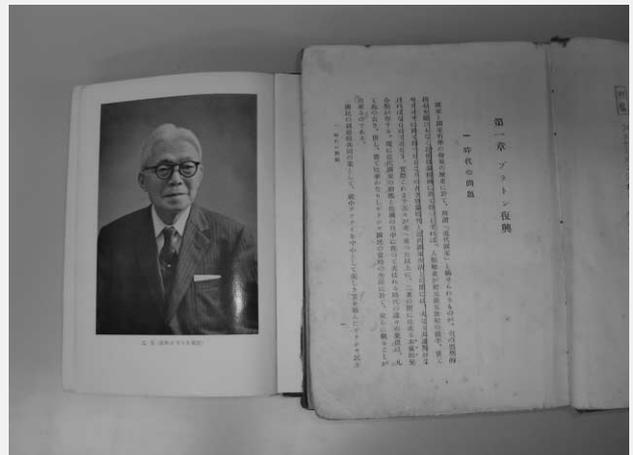
場所：総合図書館3階ロビー

総合図書館では東京大学創立130周年にちなんで、新制大学になってから現在までの歴代総長の著作展を2回にわたり開催します。今回は、新制東京大学の初代総長に就任した南原繁総長以下、矢内原忠雄、茅誠司、大河内一男、加藤一郎、林健太郎、向坊隆の各総長まで7名の著作とプロフィールを展示します。

多数のご来場をお待ちしています。

(次回(2)は7月～9月に平野龍一総長から現在の小宮山宏総長まで7名を予定)

なお、秋には東京大学創立130周年を記念した特別展示を企画しております。ご期待ください。



新制初代総長 南原 繁氏と著書「国家と宗教」

## お知らせ

情報基盤センター

### “EndNote入門セミナー”開催のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、文献管理ソフト「EndNote」（デスクトップ版）の販売元から講師をお招きして“EndNote入門セミナー”を開催します。

このセミナーは、

- ・ EndNoteを購入したばかりの初心者の方
- ・ EndNoteの使い方を基本から知りたい方
- ・ 文献情報の管理や引用文献リスト作成に専用ソフトを活用してみたい方

などを対象とした入門的な内容で、講師の実演とスライドによる説明を行います。

EndNote Web（注）との相違点や相互の転送機能についても説明します。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わずどなたでも参加できます。

#### ●日時・会場：

- ・ 3月8日（木）15:00～16:30  
駒場図書館1階会議室
- ・ 3月14日（水）15:00～16:30  
柏図書館1階メディアホール
- ・ 3月27日（火）15:00～16:30  
総合図書館3階大会議室 [本郷キャンパス]  
※柏図書館1階メディアホールに中継します。

#### ●講師：

畠中正己氏（ユサコ株式会社）

#### ●申込方法：

事前申込みが必要です。

下記のサイトからお早めにお申し込みください。

URL：

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

（先着順で、会場の定員を超えた場合のみお断りのご連絡を差し上げます。予めご了承ください）

#### ●EndNoteとは：

EndNoteは、

- ・ 各種データベースの文献情報の取り込み・管理
- ・ 論文執筆時に引用文献リストの自動作成
- ・ 収録レコードから対応する本文PDFの呼び出しなどができる、文献管理・論文執筆支援ツールです。

#### （注）EndNote Webについて：

昨年12月、本学が契約しているトムソンサイエンティフィック社の文献データベースWeb of Knowledgeに、EndNoteのWeb版ツール「EndNote Web」が搭載され、本学にご所属の方は無料で利用できるようになりました。「EndNote Web」と「EndNote（デスクトップ版）」は使える機能が一部異なります。詳細はこちら（<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/manual/#W1>）をご参照ください。

#### ●問い合わせ：

学術情報リテラシー係

TEL：03-5841-2649（内線：22649）

E-mail：literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

URL：

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>



### 「噴水」のコーナーに投稿を！

「噴水」のコーナーは、本学の学生や教職員にかかわる様々な出来事を、皆様からの投稿によるコラムとして紹介するコーナーです。

「教職員の有志でこんな活動をしています」、「本学の学生や教職員が学外のイベントでこんな活躍をしています」などなど、部局としての公式ニュースとまでは言えないけれど学内のみなさんに是非お知らせしたい、そんな情報があれば、是非積極的に「噴水」のコーナーに記事をお送り下さい。

<原稿の送付先・問い合わせ先>

総務部広報課

E-mail：kouhou@m1.adm.u-tokyo.ac.jp

TEL：03-3811-3393 内線：22031

## お知らせ

### 保健センター

#### 新入生健康診断実施に伴う各支所の診療日程変更のお知らせについて

例年3月下旬に本郷キャンパスで実施してきました新入生健康診断を、平成19年度は4月上旬から中旬にかけて駒場キャンパス・コミュニケーションプラザにおいて実施します。このため保健センターの医師、保健師等のスタッフが各支所から駒場キャンパスへ出向いて健診業務に当たります。保健センター各支所の診療日程は別表のとおり変更となります。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが何卒ご理解のうえご協力をお願いします。

#### 保健センター各支所の診療について（4月）

日にち	曜日	駒場支所	柏支所
5	木	休診（救急対応のみ）	通常どおり診療
6	金	休診（全面休診）	休診（救急対応のみ）
7	土		
8	日		
9	月	休診（全面休診）	休診（救急対応のみ）
10	火	休診（救急対応のみ）	通常どおり診療
11	水	休診（救急対応のみ）	通常どおり診療
12	木	休診（救急対応のみ）	通常どおり診療
13	金	休診（救急対応のみ）	通常どおり診療

※本郷支所については、4月6日（金）と9日（月）は休診（全面休診）となります。健診期間中前後【4月2日（月）～20日（金）】は、普段の診療日程と異なる場合がありますので、利用者におかれましては、必ず保健センターホームページ等で確認のうえ、利用するようご理解ご協力をお願いします。

参照URL：<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/health/hhomeflame.htm>



### ご意見・ご感想投稿大募集！

UTカフェは読者コメントを掲載するコーナーです。「学内広報」に掲載された記事に関するご意見・ご感想をはじめ、学内の様々な事柄に関して常々思っていることなどを、気軽にお寄せください。

投稿はEメールで受け付けます。メールの本文に以下の項目を記入し、下記アドレスまでお送りください。メールの件名は「意見」としてください。誌面への掲載はペンネーム・匿名が可能ですが、連絡用として投稿の際には氏名・所属をご記入ください。

#### <投稿先メールアドレス>

kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp

#### <記入項目>

- ①氏名・所属
- ②連絡先電話番号
- ③本名・匿名・ペンネームの希望
- ④タイトル（20字以内）
- ⑤本文（300字以内）

### 「東大川柳」も同時募集

「UTカフェ」では、東京大学をテーマにした「東大川柳」も同時募集します。優秀作は不定期で「UTカフェ」に掲載します。川柳の投稿の際には、メールの件名を「川柳」とし、④に川柳をご記入ください（⑤はなし）。

## 福田 歆一 名誉教授

本学名誉教授福田歆一先生は、ご療養中のところ、2007年1月7日（日）逝去されました。享年83歳でした。先生は、1923年7月14日神戸にてお生まれになり、1943年に東京帝国大学法学部政治学科に入学、同年海軍に応召され、終戦まで軍務に就かれました。戦後復学され、47年にご卒業、東京大学大学院特別研究生となり、南原繁先生（当時、東京大学総長）に師事されました。1951年に助教授就任、61年に教授に昇任され、政治学・政治学史第二講座（65年より政治学史講座）を担当されました。法学部および大学院法学政治学研究科において、政治学史研究と学生の教育に尽力され、佐々木毅前総長を含む多くの後進を育成されました。78年から80年まで法学部長を務められ、1984年に定年により退職され、同年名誉教授の称号を授与されました。退職後は明治学院大学教授に就任され、国際学部開設に尽力、同学部長を経て、90年から96年まで学長を務められました。

先生はホッブズ、ロック、ルソー、カントなどの



ご研究を通して、近代国家の構成原理としての社会契約説の意義を明らかにされ、主著『近代政治原理成立史序説』は日本における西洋政治思想研究の金字塔となりました。同書はまた、戦後日本の民主主義体制の正統性を政治哲学的に基礎づける試みであり、世界的にみても比類のない業績と評価されています。近代政治原理の形成と展開の過程を古典古代から19世紀までたどる浩瀚な通史『政治学史』のほか、数々のご研究によって学界を主導、76年から78年まで日本政治学会理事長も務められました。民主主義の原理への鋭い洞察をもとに日本の現実政治についても積極的に発言されるなど論壇でも活躍され、ご論考を『現代政治と民主主義の原理』『激動の世紀と人間の条件』などにまとめられました。人間形成という課題に力点を置いた教育についてのご発言も多く、日本学術会議会員、大学設置審議会委員などを歴任、教育行政にも貢献されました。卓越したご功績により92年に日本学士院会員に選出され、98年には全10巻に及ぶ著作集が刊行されるなど、生涯を学問に捧げられました。その高潔なお人柄と深い学識に支えられた躍動感あふれる授業は、教えを受けた人々の間で今なお語り草となっています。

研究、教育に輝かしい足跡を残された先生のご遺徳を偲び、ここに謹んで哀悼の意を表します。

（大学院法学政治学研究科）

## ニュースページ、インフォメーションページへの記事提出要領

「学内広報」は皆さんに送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

なお、「提出の際の留意事項」によらない原稿については、掲載ができないというのではなく、編集段階において適宜修正の上、掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. **提出方法** 記事は、各部局の広報担当者をとおして、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。
2. **提出先** 総務部広報課 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
3. **締切日** 原則として各月第1・3水曜日を原稿の締切日とする（配布は翌々週の火曜日）。  
ただし祝日等により変更となる場合があるため、HPで発行スケジュールを確認すること。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)（トップページ>広報・情報公開>学内広報）
4. **提出の際の留意事項**
  - (1) **文字数** 文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。
  - (2) **写真**
    - ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
    - ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを送付すること。
    - ③ 写真は電子データがない場合プリントのものも掲載可とする。
  - (3) **書式**
    - ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合はこの限りではない）。
    - ② 原稿のはじめに担当部局名と記事タイトルを記載すること。
    - ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。
  - (4) **文章表現のきまり**
    - ① 既に行われた行事や決定した事項などの報告記事は、「である調」を用いること。
    - ② これから行われる行事や募集などのお知らせは、「ですます調」を用いること。
    - ③ 句読点は「、」「。」を用いること（「,」「.」は用いない）。
    - ④ 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
    - ⑤ このほか、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とするなど、表記の統一のための修正を編集段階において行う。
5. **問い合わせ先**  
総務部広報課広報企画チーム  
TEL : 03-3811-3393 内線22031 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

# EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
「第1回空間情報社会シンポジウム」	3月7日(水) 13:00~	山上会館	空間情報科学研究センター 担当: 木田 柏キキャンパス総合研究棟4階 TEL: 04-7136-4290 E-mail: miki.k@csis.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.soc.nii.ac.jp/gisa/jp/top.html
公開講演会「囲碁の魅力ー囲碁で養う考える力」	3月10日(土) 14:00~	教養学部 駒場キャンパス 18号館ホール	教養学部附属教 養教育開発機構 寄付研究部門 教養教育への囲碁の活用研究部門 TEL: 03-5465-8923 E-mail: igo2007@ardbeg.c.u-tokyo.ac.jp URL: http://igo.c.u-tokyo.ac.jp/event.html
東文研セミナー 「インド学研究と写本」	3月12日(月) 14:00~17:00	東洋文化研究所会議室 (工学部8号館7階)	東洋文化研究所 永ノ尾信悟 E-mail: seino@ioc.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
東文研第6回定例研究会 「帰属カテゴリー、ワード・ポリティクス、リアリティ ~現代ナパールにおける社会生活の民族誌の為のメモ ランダム」	3月15日(木) 14:00~16:00	東洋文化研究所会議室 (工学部8号館7階)	東洋文化研究所 研究企画委員会 URL: http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
社会科学研究所 現代日本研究会 Non-Nuclear Weapons States and Nuclear Proliferation	3月20日(火) 18:00~	赤門総合研究棟5階 549号室	Minako Sato E-mail: satom@iss.u-tokyo.ac.jp URL: http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/cjg/
生産技術研究所 計測技術開発センター公開シンポジウム 「化学物質汚染に関する計測と対策」	3月23日(金) 13:30~	生産技術研究所 An棟2階コンベンションホール	生産技術研究所 計測技術開発センター URL: http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/tatsuma/symp3.html
東文研セミナー 「Ethnic Autonomy for Sustainable Peace in Nepal」	3月23日(金) 15:00~	東洋文化研究所会議室 (工学部8号館7階)	「南アジア北部における人類学的研究の再検討」班研究会 名和克郎 E-mail: nawa@ioc.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
海外先進教育実践支援プログラム 国際シンポジウム 国際標準の学部初年次教育実現へ向けて ー教員・職員・学生の新しい連携の形ー	3月26日(月) 13:00~17:00	駒場キャンパス18号館ホール	教養教育開発機構 TEL:03-5454-6660 URL: http://www.komed.c.u- tokyo.ac.jp/miraipro/20070326.pdf
文科省・女子中高生理系進路選択支援事業 白鳳丸見学会	3月27日(火) 28日(水) 10:00~	東京 晴海埠頭「白鳳丸」船上 ならびに晴海客船ターミナルホ ール	海洋研究所 URL: http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/project/shingaku/index.html
ローマ条約調印50周年記念公開セミナー 「ローマ条約と欧州統合の“父”たち」	3月29日(木) 17:00~	駒場キャンパス アドミニストレーション棟 学際交流ホール	東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター事務局 E-mail: desk@desk.c.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/sympo_e134.html
東京大学創立130周年記念事業 第4回東京大学の生命科学シンポジウム BIOOUT2007 ※14ページ参照	4月14日(土) 10:00~	安田講堂	生命科学教育支援ネットワークシンポジウム当番世話人 入村達郎/酒井京子 TEL: 03-5841-4870/FAX: 03-5841-4879 E-mail: biout2007@lse.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.lse.u-tokyo.ac.jp/biout2007.html
第15回講演会 光触媒研究講座 「光触媒研究・技術発展の歴史・現状・展望」	4月24日(火) 13:15~16:45	先端科学技術研究センター 4号館講堂(2階)	光機能材料研究会事務局 FAX: 03-5452-6593
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
印刷博物館・東京大学大学院情報学環 共催 企画展示 モード・オブ・ザ・ウォー 東京大学大学院情報学環所蔵 第一次世界大戦期 プロバガンダ・ポスター コレクションより ※1351号参照	1月20日(土) ~3月25日(日) 休館日: 毎週月曜日 開館時間: 10:00~ 18:00 (入場は17:30まで)	印刷博物館	印刷博物館 TEL: 03-5840-2300 (代表) URL: http://www.printing-museum.org/
東京大学創立130周年記念特別展示 「東京大学コレクションー写真家上田義彦のマネエリ スム博物誌」展	2月5日(月) ~4月27日(金)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 TEL: 03-5777-8600/FAX: 03-5841-8451 E-mail: web-master@um.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp/
常設展示「(新制) 東京大学総長著作展(1) ー南原総長から向坊総長までー」 ※17ページ参照	3月1日(木) ~5月31日(木)	総合図書館3階ロビー	附属図書館 URL: http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/
EndNote入門セミナー ※18ページ参照	3/8(木)、3/14(水)、 3/27(火) 15:00~16:30	3/8 駒場図書館1階会議室 3/14 柏図書館1階 メディアホール 3/27 総合図書館3階大会議室	情報基盤センター 学術情報リテラシー係 E-mail: literacy@lib.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html
Wakeland教授によるMolecular Genetics (分子遺伝学)の講義シリーズ(全6回) ※1352号参照	3/14(水)、19(月)、 28(水)、4/11(水) 12:00~13:00	東大病院 または研究教育棟の会議室	疾患生命工学センター 分子病態医科学 宮崎徹 TEL: 03-5841-1436 E-mail: tm@m.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/
第3回高齢者教室 (老後を迎えるにあたって起こり得る様々な問題につ いての、老年病の各専門分野の方々の講演) ※1352号参照	3月28日から6月13日 までの毎週水曜日 (4/4と4/11は休み) 14:00~	東大病院 入院棟A 15階大会議室	東大病院老年病科 TEL: 03-5800-8652 担当 野村
駒場IIリサーチキャンパス公開2007	5月31日(木) ~6月2日(土)	駒場IIリサーチキャンパス	先端科学技術研究センター URL: http://www.rcast.u- tokyo.ac.jp/ja/events/index.php#events104

# Contents

## 特集

- 02 本郷構内交通社会実験  
～正門周辺を快適な歩行空間に～

## NEWS

### 一般ニュース

- 05 学生部  
第2次学力試験（前期日程・後期日程）の出願受付終わる
- 05 学生部  
平成19年度第2次学力試験（前期日程）の受験者数決まる
- 06 総務部  
名誉教授懇談会の開催

### 部局ニュース

- 06 大学院総合文化研究科・教養学部  
部局長の交代
- 07 大学院総合文化研究科・教養学部  
「細胞・器官制御」（和光純薬工業株式会社）  
寄付講座、設立される

## コラム

- 08 さすてなTimes Vol.11
- 08 調達本部です 第23回
- 09 Crossroad～産学連携本部だより～Vol.12
- 10 バリアフリーの現場から 第6回
- 11 PCサブリ Vol.4
- 11 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第9回
- 12 龍岡門横丁噺 第13回
- 12 コミュニケーションセンターだより No.31
- 13 噴水 教育学部附属中等教育学校で  
「音楽祭」開催される

## INFORMATION

### シンポジウム・講演会

- 14 生命科学教育支援ネットワーク  
第4回 東京大学の生命科学 シンポジウム

### お知らせ

- 15 退職教員の最終講義
- 17 附属図書館  
常設展示「（新制）東京大学総長著作展  
（1）－南原総長から向坊総長まで－」
- 18 情報基盤センター  
“EndNote入門セミナー”開催のお知らせ
- 19 保健センター  
新入生健康診断実施に伴う各支所の診療日  
程変更のお知らせについて

## 訃報

- 20 福田 歆一 名誉教授

## 22 EVENT LIST

## 淡青評論

- 24 虚実の彼岸

### ◆ 表紙写真 ◆

本郷キャンパス・正門前銀杏並木の風景  
（2ページに関連記事）

## 編集後記

この冬一番という厳しい寒さの中、第2次学力試験の前期日程が無事に終了しました。これから前期日程の合格発表、そして後期日程とその合格発表と、受験シーズンもいよいよ後半戦となります。受験生はもちろんのこと、入試業務に関わっている教職員のみなさんにとっても待ち遠しい春は、すぐそこにやってきました。何かと忙しい年度末ですが、みなさん体調にはくれぐれもお気をつけてください。（あ）



七徳堂鬼瓦

## 虚実の彼岸

キャンパス内にコンビニエンス・ストアやファースト・フードの店舗ができて、まさに国立大学法人化もたけなわかと思わせる昨今であるが、この環境下で、大学の「社会的貢献」への圧力もふたたび強まりつつあるように感じられる。東京大学憲章は「社会との連携」や「社会への還元」を高らかに謳っているし、一昨年から産学連携本部も発足した。産学協同といえば、かつて大学紛争の時代には、大学の自治と学問の独立を破壊する政策として批判対象になったものだが、いまや無条件に肯定すべき理念として認められたようである。

それはそれで結構なことである。しかし大学がいわゆる職業教育機関ではなく、企業の付属研究所でもない以上、社会的有用性の度合は、つねに相対的で流動的なものにすぎない。もちろん他分野の事情はよくわからないが、おそらく厳密な意味で実用的な研究・教育は、理系と文系を問わず、また基礎学と応用学の区別を問わず、部分的なものにとどまるだろう。歴史的にみれば、中世ヨーロッパで大学が誕生し、また近代国家形成下に大学制度が整備された目的は、少なくとも狭義の実利主義ではない。今日その前提が問われているのは事実だが、そうであればこそ、大学と学問の社会的有用性とは何かについて、深めた議論が必要になるだろう。

そんなことを考えているうちに、教授会資料として配布された「東京大学の教育をめぐる基本的問題」という文書を読み驚いた。そこではそれぞれの学問分野が「実学」と「虚学」に分類され、前者を重視するが、後者も尊重すべきだと書かれていたからである。そもそも「虚学」とは文学部系研究者の俗語にすぎず、実利にうとい学者の自負と自嘲のまじった心情告白にすぎない。文書作成者の意図がそこにはわかってはいるが、こういう言葉が概念化されて学内の公的議論にもちいられ、学問分野の安易な二分法が固定化されると、潜在的な差別構造が形成されるだけでなく、「実学」と「虚学」の双方に内面的空洞化をひきおこす危険性がある。社会的貢献に背を向けるのは論外としても、無反省な「社会との連携」が、人類史の未来に貢献するという保障はない。おそらく大学のゆくえは、虚実の彼岸にある。

深沢克己（大学院人文社会系研究科）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1353 2007年2月28日  
東京大学広報委員会

〒113-8654  
東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学総務部広報課  
TEL：03-3811-3393  
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.u-tokyo.ac.jp>